

□	年	□	組	名前	
---	---	---	---	----	--

## 教材4-B-(3) 資料の活用、<sup>ぶんせき</sup>分析

『度数分布表の問題』『ヒストグラムの分析』の解決のために

それぞれの用語の意味

- 度数とは、それぞれの階級に入っている個数。
- 階級とは、「26° C以上 28° C未満」のように分ける区間。
- 相対度数とは、各階級の度数を、総度数でわった<sup>あた</sup>い値
- 範囲とは、資料において、資料の最大値<sup>ち</sup>と最小値の差。
- 度数分布表とは、右の【表】のように、階級と度数で資料の分布を表している表。
- ヒストグラムとは、「階級の幅を底辺、度数を高さ」とする長方形を順に並べてかいたグラフ。
- 中央値とは、資料を大きさの順に並べたとき、中央にくる値。
- 最頻値<sup>さいひんち</sup>とは、資料の中で、度数のもっとも多い値。
- 代表値とは、資料全体の特徴を1つ値として代表する数値。

【表】ある市の9月の最高気温

階級(°C)		度数(日)
以上	未満	
22	~ 24	2
24	~ 26	4
26	~ 28	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">a</span>
28	~ 30	3
30	~ 32	12
32	~ 34	6
合計		30

まず、それぞれの用語の意味を理解しましょう。

- ①最高気温が 30°Cの日は、表の 30°C~32°Cの階級に入り、その度数は 12 となる。  
相対度数は、(30°C~32°Cの階級の度数) ÷ (総度数) で表す。

よって、

②中央値は  $a$  が  $30 - (2 + 4 + 3 + 12 + 6) = 3$

30 日で中央は 15 日になるので

年  組 名前

③最頻値の含まれる階級の相対度数は、もっとも多い度数は  だから

最頻値の含まれる階級の度数 ÷ 総度数で求められる。

よって、

$$\boxed{\phantom{000}} \div \boxed{\phantom{000}} = \boxed{\phantom{000}}$$

④10人の生徒の身長は、

161.3、169.3、156.1、165.0、149.3、159.2、170.1、162.2、150.6、168.1

このとき、<sup>はんい</sup>範囲を求めなさい。

範囲は上のように、それぞれの<sup>あた</sup>値があれば求めることができるね。

しかし、度数分布表やヒストグラムでは範囲を求めることはできない。

$$\begin{aligned} \text{最大値} - \text{最小値} &= \boxed{\phantom{000}} - \boxed{\phantom{000}} \\ &= \boxed{\phantom{000}} \end{aligned}$$